

城南家保ニュース Vol.28-1 2

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



抗菌剤の慎重使用をお願いします

動物用抗菌性物質製剤（以下、抗菌剤）は、家畜の健康を守り、安全な食品の安定した生産を確保する上で重要な資材です。

しかし、その使用によって出現・増加する薬剤耐性菌のリスクも常に存在します。

薬剤耐性菌とは

薬剤耐性菌とは、抗菌剤の存在下でも生存できる細菌で、動物用医薬品や飼料添加物として抗菌剤を使用すると、薬剤耐性菌が生き残って増加することがあります。



何が問題なのか

生き残って増加した薬剤耐性菌によって、家畜に投与する抗菌剤が効きにくくなることがあります。家畜の感染症に本来効くはずの抗菌剤が効かなくなると、家畜の死亡や、治療期間の長期化など、大きな損害が生じます。

また、薬剤耐性菌が食品などを介して人に伝播した場合、人の治療のために使用される抗菌剤が十分に効かなくなる可能性があります。OECD（経済協力開発機構）の報告書によれば、2013年に薬剤耐性菌が原因で亡くなった方が少なく見積もって全世界で70万人いるとされています。

慎重使用の具体的な取組

（以下について、家保から獣医師・畜産農家へ啓発しています。）

- ・抗菌剤の使用機会を減らすため、飼養衛生管理の徹底や、ワクチンの使用などにより、感染症の発生を予防する。
- ・抗菌剤の使用を真に必要な場合に限定する。
- ・抗菌剤を使用する場合は原因菌を特定し、薬剤感受性試験などを行い、有効な抗菌剤を選択する。
- ・フルオロキノロン等の二次選択薬を最初の治療から使用することを避ける。
- ・感染症や薬剤耐性菌の状況などに関する情報を、関係者間で共有する。



あさぎり町畜産振興協会の研修を行いました

平成29年2月27日、当家保において、あさぎり町畜産振興協会須恵支部の女性部の皆様を対象とした研修が行われました。

十数名の肉用牛繁殖農家の方々に、韓国における口蹄疫の発生情報や適切な消毒方法などの防疫に係る情報から、産前産後の飼養管理や子牛の飼養方法などの生産に係る情報まで、幅広く説明しました。

農家の方からは、個々の農場の飼養方法についての質問などがあり、活発な研修となりました。



近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	韓国	2月8日	牛	A型
		2月5、6、9、11~13日	牛	O型
	中国	2月7日	牛/羊	O型
	モンゴル	1月24~29日	牛/山羊/羊	O型
高病原性 鳥インフルエンザ	中国	1月10日	家きん	H7N9
	台湾	1月6日~1月22日	地鶏/鶏/あひる/七面鳥	H5N2
		2月2日	あひる	H5N6
	ロシア	1月1日、5日	コブハクチョウ	H5

3月1日現在

編集後記 (S.S)

梅の花も咲き、段々と暖かくなって参りました。皆様いかがお過ごしでしょうか。年度末となるとどこもかしこも大忙しですが、病気はお構いなしにやってきます。近隣諸国では口蹄疫や鳥インフルエンザが発生しています。明るく新年度を迎えるためにも、引き続き警戒をよろしくお願いします。